



新田中だより

令和6年8月28日発行

草加市立新田中学校 生徒数421名

学校教育目標：『豊かな心と学ぶ意欲をもち、広い世界でたくましく生きる生徒』

「奇跡」ではない

校長 遠藤 淳一

今年の夏、パリオリンピックが開催されました。多くの人々が競技を観戦し、それを通してスポーツの素晴らしさや感動を得たことでしょう。選手の皆さんの活躍はもちろんですが、私は、各TV局のアナウンサーの皆さんは「よく調べているな」「言葉を精選して素晴らしい表現で伝えているな」と感心していました。

そんな時、元フジテレビでフリーの笠井信輔アナウンサーがブログを更新し、実況の「言葉」について説明していました。

笠井アナウンサーは、男子体操団体や、女子サッカー、スケートボードなどで日本代表の選手たちが繰り広げている逆転劇に触れ、「【奇跡の大逆転】と見出しをつけたくなるが、実況アナウンサーたちは『奇跡が起きた!!』とは言いません。」と言っています。それは、その競技を練習から見続けてきた担当アナウンサーたちが、紛れもなく、これは『努力の結果』であるということを知っていたからだそうです。『あきらめない気持ちが勝利へとつながった』ということを知っているのが実況アナウンサーなのだからだそうです。

続けて、後輩アナウンサーたちの見事な実況、例えば「金メダルに恋した14歳」などのフレーズに触れ、「後輩たちの活躍を誇らしく思います。」と称賛していました。最後は「そうした実況アナウンサーたちは大逆転を『奇跡』と言わない。**最後まであきらめない気持ちこそが大切である。**」とつぶっていました。

私は、確かにその通りだと思います。「奇跡だ」と言うのは、勝利を手にしてきた方々に対して失礼な言い方だと思います。自らの努力によって勝利をつかみ取ったのであり、それは奇跡ではなく得るべくして得たもの、必然なものなのです。

私の記憶に残っているフレーズ（名言）は、2004年アテネオリンピック体操男子団体戦決勝で日本が28年ぶりに金メダルを獲得した瞬間にアナウンサーが発した「伸身の新月面が描く放物線は栄光への架け橋だ！」です。この栄光への橋を架げるためにどれだけの努力をし、どれだけ悔しい思いをしてきたことか。どれだけ眠れない夜を過ごしてきたことか。そして、本番に向かう時にどれだけ体が震えていたことか。しかし、それらを乗り越えてつかんだ勝利であり、それは必然な勝利なのです。それを想像させられると涙が出てきます。

惜しくも勝利に手が届かなかった選手もいます。しかし、最後まであきらめずに戦った姿勢は次につながるはずだと思います。いつか必ず夢を叶える日がくることでしょう。

生徒の皆さんはどう思いますか。これは、スポーツの世界だけではなく、日常の生活に置き換えて言えることです。勉強や学校生活に置き換えることもできます。是非、目標や夢の実現に向かってあきらめずに努力し、奇跡ではなく自らの手でつかみ取ることを願います。

新田SPIRIT

~ We are tied with strong chains ~

1. 【感謝】「ありがとう」「ごめんなさい」を言います
2. 【敬愛】「いじめ」をしません
3. 【礼儀】心をこめて接します
4. 【正義】卑怯な振る舞いをしません
5. 【自律】我慢をします
6. 【努力】夢に向かって頑張ります

